配達という名の地域パトロール、行政とのタイアップ地域貢献

ASA手稲東部、ASA発寒（はっさむ）、ASA稲穂、ASA八軒（はちけん）、ASA西野

地区の集会施設新築への寄付、読者向けクリスマス企画、防犯など多岐にわたる貢献活動

実施期間

平成4年6月～

実施地域

北海道札幌市手稲区、西区のASA区域内

活動概要

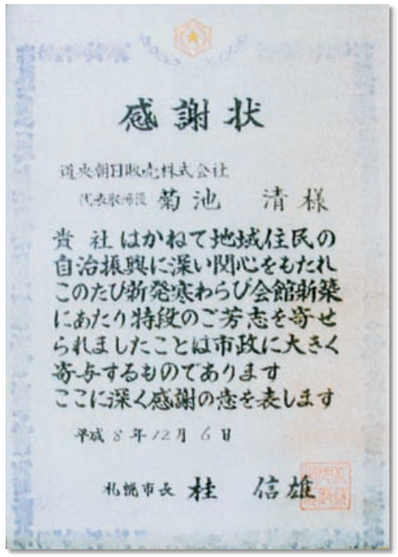
札幌市内のASA手稲東部、ASA発寒（はっさむ）、ASA稲穂、ASA八軒（はちけん）、ASA西野の朝日新聞の5つの販売所は、平成4年から地区の集会施設新築への寄付、病気で倒れたひとり暮らしの高齢者の救助、クリスマスに読者宅にサンタクロースを派遣する企画、警察署との共同防犯活動をはじめ行政とタイアップした地域貢献活動などを幅広く展開している。

活動開始当初は、個人による活動が多かったものの、徐々に組織的な活動ができるようになり、読者や地元住民から感謝状をもらうなど、地域貢献活動として成果が表れている。

＊

ASA手稲東部、ASA発寒、ASA稲穂、ASA八軒、ASA西野＝道央朝日販売株式会社（代表取締役・菊池清）が経営している札幌市手稲区、西区内にある5つの朝日新聞販売所。

札幌市長からの表彰



感謝状

道央朝日販売株式会社
代表取締役 菊池 清 様

貴社はかねて地域住民の自治振興に深い関心をもたれこのたび新発寒わらび会館新築にあたり特段のご芳志を寄せられましたことは市政に大きく寄与するものであります
ここに深く感謝の意を表します

平成8年12月6日

札幌市長 桂 信雄

地元サッカー少年団へのサッカー経験者のボランティアコーチ派遣（5年前より継続）

病気で倒れた高齢者を救助

異変を察知 新聞たまり

ASA店長の須佐勝則さん

札幌市西区の朝日新聞販売所「ASA西野」店長の須佐勝則さん(52)＝写真＝が集金中に、自宅で動けなくなっていた一人暮らしのお年寄りを助けた。

2日、同区の男性(73)宅を集金で訪れたところ、ポストに2、3日分の新聞がたまっていた。「25年近く購読していて一日不在にするだけでも連絡をくれる人。おかしいと思った」

4日午前に再び訪れると、新聞がまだ残っていたため、大家さんに連絡し、呼び鈴を鳴らし続けた。しばらくすると男性がふらふらの状態でドアを開けたという。

須佐さんは、男性のかかりつけの医者を呼び、救急車で病院に運んだ。

男性はふだんから血圧が高く、倒れたまま飲まず食わずで過ごしており、須佐さんが気づかなければ危険な状態だったという。

お年寄りの客に積極的に声を掛け、雪の日などには買い物を頼まれることもあるという須佐さんは、「36年間新聞配達をしているが、こんなことは初めて。これからも地域のために頑張りたい」と話している。

朝日新聞　平成18年4月12日付朝刊

岩手日報会ウィング基金

岩手日報会

寄贈先団体の活動の活性化促す
創刊135周年に向け、
ウィング基金積立継続中

■ 実施期間

平成5年2月～

■ 実施地域

岩手県内

■ 活動概要

岩手日報会は平成５年２月、自然保護や環境保全を目的とした「岩手日報ウィング基金」を創設し、岩手日報創刊 120 周年にあたる平成８年に向けて、基金の積み立てを開始した。積立金は販売センターが毎年７月、新聞１部当たり３円を、発行本社の岩手日報社も同額を拠出するほか、配達員らの自主的な募金や寄付金により、目標を大きく上回った。平成８年９月に、岩手県内を中心に東北各地の生態系豊かな森づくりなどを目指した「東北地域環境計画研究会」に 580 万円を贈って以降、これまでに、延べ６団体に総額 1,730 万円を贈呈している。

同活動は、寄贈先各団体の活動の活性化を促すなどの助成効果が上がっており、諸団体の育成面からも地域貢献活動として評価されている。

＊

岩手日報会＝岩手日報の販売センター所長で組織。向井田敏央会長。会員数97人。

岩手日報創刊120周年事業

ウイング基金 晴れの贈呈

東北環境計画研「有効に利用」

第17回 東北地環研研究会

岩手日報ウィング「自然・環境保護」

村井宏東北地域環境計画研究会会長にウイング自然・環境保護基金の目録を手渡す河口洋岩手日報会会長㊨

岩手日報社と岩手日報会（会長・河口洋北上販売センター社長）が岩手日報創刊百一十周年を記念して積み立てた「ウイング自然・環境保護基金」の贈呈式は七日、盛岡市大沢川原の岩手労働福祉会館で行われ、東北地域環境計画研究会（村井宏会長）に五百八十万円を贈った。基金は北上山地の農林業の開発と環境保全に関する調査研究に活用する。

贈呈式は同研究会の研究報告会の席上行われ、大志田諭岩手日報社専務が「記念の基金を地域社会のために役立ててほしい」とあいさつ。河口会長が同研究会の村井会長に目録を手渡した。

村井会長は「三年会の活動を認められ光栄だ。安全で豊かな地域の創造に有効に活用したい」と、おれのの言葉を述べた。

ウイング自然・環境保護基金は、創刊百一十周年の節目に読者や地域への還元を目的に四年前に積み立てを開始。岩手日報販売センターでつくる岩手日報会と岩手日報社が基金を出したほか、各センターに募金箱を設けて市民の協力も求め、当初目標の四百八十万円を上回った。

創刊百一十周年を迎えた今年七月に贈呈先を決定した。

東北地域環境計画研究会は、自然科学の研究者や技術者、一般市民ら正会員、賛助会員を含め約二百五十人が参加。各種研究報告会や公開フォーラムを開催し、自然環境の保全、人間と自然の共生の在り方などを探っている。

岩手日報
平成8年9月8日付朝刊

4団体に計650万円

岩手日報ウイング基金 盛岡で贈呈式

河口洋岩手日報会会長からウイング基金を贈られる「かたくりの会」の菅原東一会長㊨

岩手日報ウイング基金・市中ノ橋通二丁目のブラザおでってで行われ、岩手日報創刊百二十五周年を記念して、同社の佐々木昇常務取締役と岩手日報会の河口洋会長から、四団体に総額約六百五十万円が贈呈された。

贈呈先は東北地域環境計画研究会（村井宏会長）、長嶺アニメ映画「アテルイ」制作上映運動推進県民の会（代表委員・後藤晨水沢市長）、がん患者と家族による「かたくりの会」（菅原東一会長）の三団体のほか、県教委（合田武教育長）を通じ県内の中学、高校に岩手日報夕刊で連載中の「いわて 21世紀への遺産」を本にした「いわて未来への遺産」の三部作二百五十二セットが贈られた。

同基金は、岩手日報創刊百一十周年を記念して岩手日報社と岩手日報会が設立、積み立てを開始した。今回が二回目の贈呈。

岩手日報　平成13年7月22日付朝刊

岩手日報　2001年（平成13年）7月17日（火曜日）

地域に還元 ウイング基金

3団体に贈呈

「未来への遺産」中学・高校・図書館

岩手の精神 子どもに

アニメ「アテルイ」製作 上映推進県民の会

豊かな県土を目指す

東北地域環境計画研究会

手を携えるがん患者

かたくりの会

岩手日報ウイング基金

岩手日報社と岩手日報会（河口洋社長）が岩手日報創刊百二十周年を記念して、自然や環境への還元を目的に一九九三年から積み立てを開始し、今年は結成十周年、村井宏東北地域環境計画研究会（村井宏会長）に五百八十万円を寄贈。今度が第一回の贈呈になる。

東北地域環境計画研究会（村井宏会長）は九六年、岩手県内を中心に東北各地の生態系豊かな森づくりなどを目指して発足。毎年、研究報告会や公開フォーラムを開催し、自然環境の保全、人間と自然の共生の在り方などを探っている。

会員は一般市民ら約二百五十人。研究者や技術者、学生らが参加。今年七月に盛岡市で開催した研究報告会では、「安全で豊かな地域の創造」をテーマに講演や、各地の自然環境についての報告があった。

キックオフレースは「安全で豊かな地域の創造」。環境づくりを考える会の多田宏さんら、岩手から東北、北海道に生態系の保護・環境づくりを呼びかけている。

今年結成十周年、村井会長は「環境に対する考え方は、その時々で変わってくる。自然と人間フォーラムを通じて、岩手から東北、中国地方の学術・教育・文化・市民の交流を軌道に乗せたい」と抱負を語った。

岩手日報　平成13年7月17日付朝刊

平泉の文化遺産

次代の補修応援

岩手日報会ウィング基金

町に森林造成費

用材確保へ植樹育林事業　8日に贈呈式

岩手日報　平成18年7月3日付夕刊

県下盲・ろう・養護学校児童・生徒に普通傷害保険贈呈の継続事業

信毎会連合会

児童・生徒の校外での安全・安心に役立つ

実施期間

昭和 56 年から毎年実施。平成 19 年贈呈で 27年目

実施地域

長野県下盲・ろう・養護学校（19 校）の幼稚部、小学部、中学部

活動概要

信毎会連合会は、昭和56年から長野県下の盲・ろう・養護学校 19 校の幼稚部、小学部、中学部に通う、児童・生徒の交通安全を願って、学校管理下以外の事故・死亡・けがに対して長年保険料を贈呈してきた。平成 19 年度は、1,280 人分の保険料として約 66 万円を贈呈した。これまでに保険を適用した事例は 10 件に上る。

同活動は、学校側窓口の教頭先生や PTA より感謝され、児童・生徒の学校以外での安心・安全に役立っている。

＊

信毎会連合会＝信濃毎日新聞を取り扱う 166 人の販売所長を会員とし、会員の福利厚生や共同事業、研修のほか、従業員の確保・福利厚生などを事業とする。西堀恒司会長。

■平成19年度保険金額と保険料

死　亡	100万円
後遺障害	100万円～3万円
7日以上の入院	1日1,000円
通　院	1日500円
保険料	661,760円（学校管理下外のみ補償）

■ここ20年の保険適用事例

昭和63年	家庭でのけがによる入院（松本養護学校）
平成元年	踏切事故による死亡（諏訪養護学校）
平成2年	交通事故による死亡（小諸養護学校）
平成5年	自転車事故による入院（伊那養護学校）
平成10年	家庭でのけがによる通院（飯田養護学校）
平成10年	家庭での事故による死亡（伊那養護学校）
平成11年	自宅の火災により焼死（安曇養護学校）
平成12年	歩行中によるけがで入院（花田養護学校）
平成14年	自転車で走行中、交通事故でけが（松本養護学校）
平成18年	自宅でけが、骨折（諏訪養護学校）

障害児らの保険料寄贈

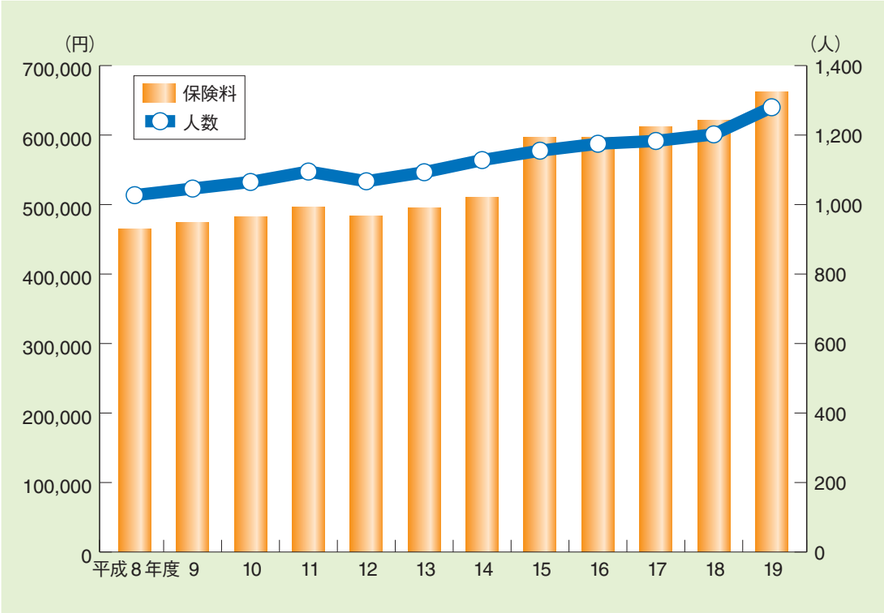
信毎会連合会など

信濃毎日新聞の販売店百六十六店でつくる信毎会連合会（西堀恒司会長）は二十四日、県内の特別支援学校（盲、ろう、養護学校）の児童、生徒計千二百八十人が普通傷害保険に加入するための保険料六十六万円余を県教委と信大付属養護学校（長野市）に贈った＝写真。

長野市内の十四店でつくる信毎長野市店主会（宇都宮武会長）も、市内の小学一年生三千七百十八人分の保険料約九十万円を市教委や県教委などに贈った。

県庁を訪れた西堀会長と宇都宮会長がそれぞれ山口利幸教育長に目録を手渡した。山口教育長は「子どもたちの安心と安全が求められている時代。皆さんの厚い志に感謝する」と述べた。

児童生徒が加入する保険は、学校加入の傷害保険では適用されない在宅時や休日など学校管理外の時間帯が対象となる。信毎会連合会の保険料贈呈は二十七年目。長野市店主会は二十八年目。

信濃毎日新聞　平成19年4月24日付夕刊

■年度別保険料と贈呈人数